塩尻市都市計画マスタープラン

全体構想の概要

塩尻市では令和６年度中の公表を目指して
「塩尻市都市計画マスタープラン」の見直しを進めています

1 「都市計画」と「都市計画マスタープラン」とは

● 「都市計画」とは

➡土地の使い方のルール、道路や公園等の配置、計画的な市街地整備事業を定めるものです

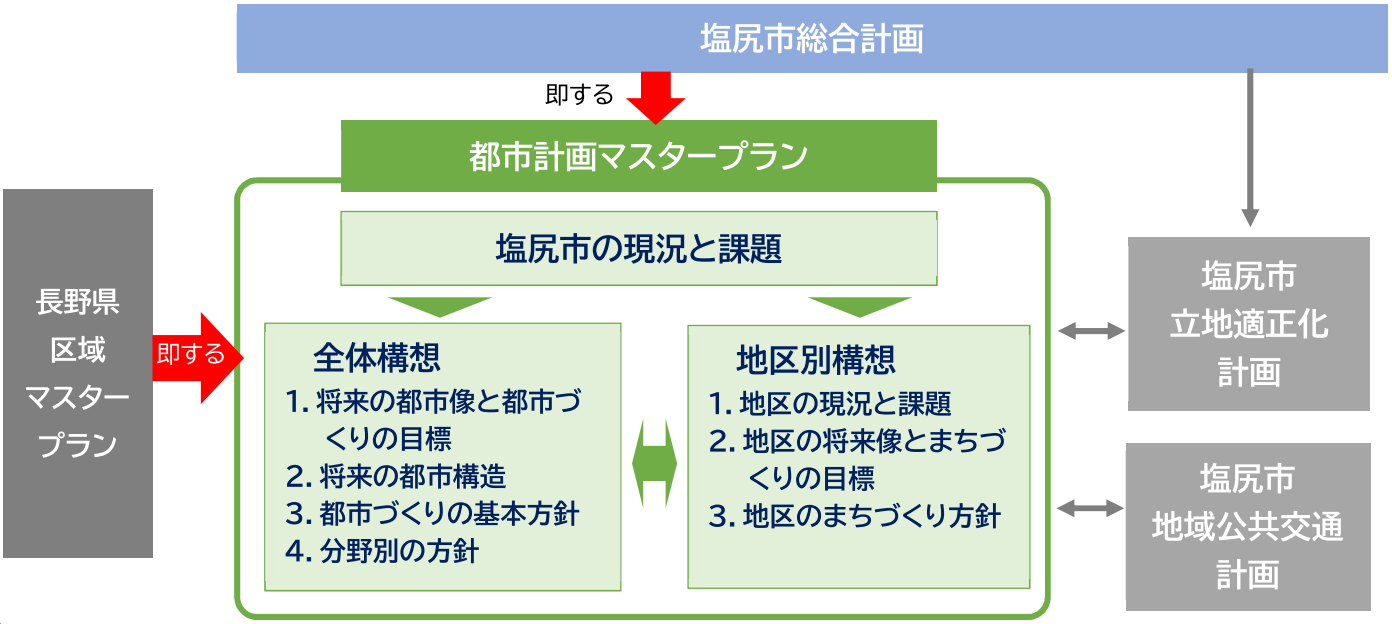
● 「都市計画マスタープラン」とは

➡市町村が、市民の意見を反映して、将来のまちのあるべき姿やまちづくりの基本的方向性をわかりやすく示すもの

➡おおむね 20 年後の都市の姿を展望し、個別の施策内容はおおむね 10 年後を目標として定めます

2 「都市計画マスタープラン」の構成

● 都市全体を対象とする「全体構想」、市内 10 地区毎に定める「地区別構想」によって構成され、塩尻市総合計画等に即して、市の都市計画の基本方針を定めます

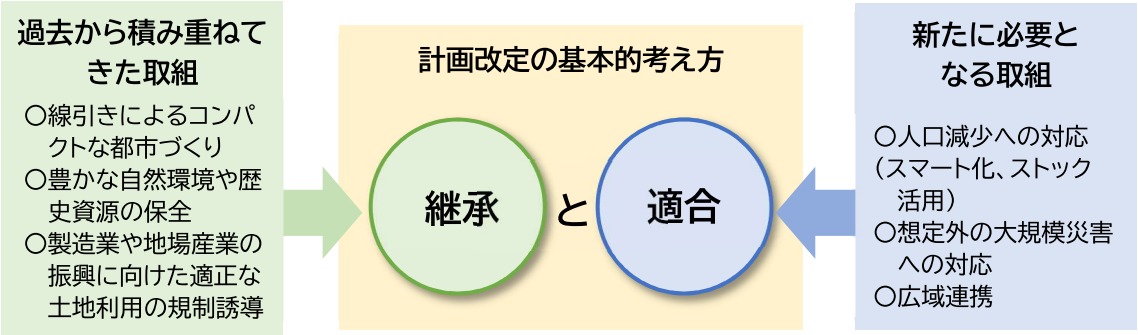


塩尻市都市計画マスタープラン

全体構想の概要

3 今回の改定の視点

- 過去から積み上げてきた取り組みを継承しつつ、新たな時代に求められる都市像へと適合させることを基本に計画を改定します



4 タウンミーティングで確認したい事項

- 今回のタウンミーティングでは、地域の特性を踏まえたまちづくりの目標や方針を定める「地区別構想」の策定にあたって、地域の皆さんの声を広く聴くものです
- 地区別構想では、最終的には地区が有する強み・弱みを整理した上で地区の抱える課題を抽出し、その課題を踏まえた地区の目標やまちづくりの方針を定めたいと考えています
- 数値的な事実等から、市で地区毎の強み・弱み、地区の目標等を暫定的に設定しますので、そこに対して皆さんが感じていることを述べていただき、案を練磨したいと考えています

楢川地区

地区別構想の骨子

1 地区の歴史と成り立ち

➡江戸時代に中山道の宿場町として奈良井宿と贄川宿が設定

➡奈良井宿は、奈良井川沿いを緩やかに下りつつ約 1km にわたって続く日本最長の宿場であり、昭和 53 年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定

➡贄川宿は昭和5年の大火で古い町並みの大部分が焼失

➡江戸時代には木曽漆器の生産が始まっており、明治に奈良井で錆土という良質な下地素材が発見されたことによって漆器の一大産地として発展

➡昭和 39 年の松本・諏訪新産業都市指定により、昭和 48 年から揚水式発電所のための奈良井ダム建設が始まり、昭和 58 年に工事完了

➡平成 17 年に旧楢川村が塩尻市に編入し楢川地区としてスタート

➡近年、空き家化が進む古民家をレストランや旅館などの複合施設に改修する取組が始動

➡令和 3 年に国道 19 号の桜沢トンネルが開通し、旧道の防災課題箇所を回避することができ、利用者の安心・安全な走行が可能となる

2 地区の概要

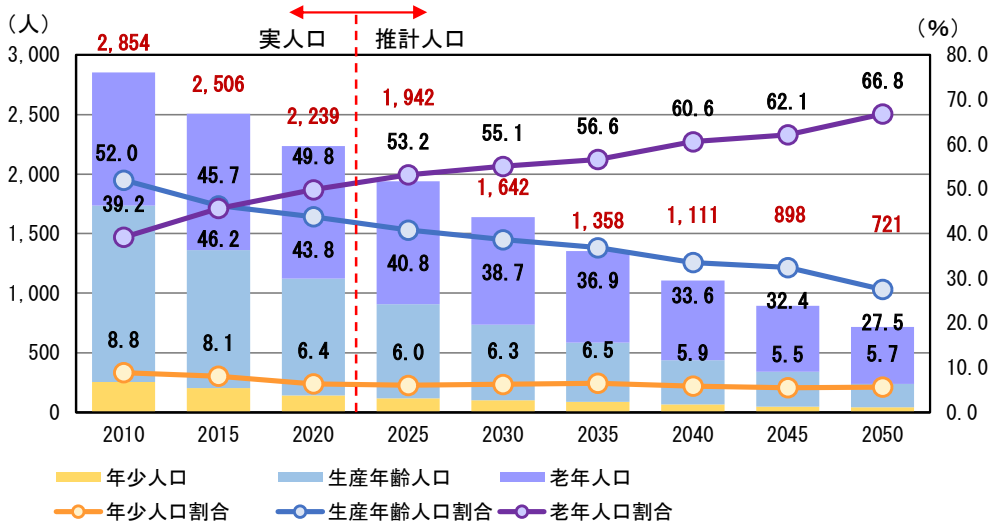
〇地区面積約 4,993ha

〇地区内全域が都市計画区域外

〇地区人口は 2,239 人(R2 年)、過去 10 年間で 615 人の減少

〇高齢化率(65 歳以上人口割合)は市内で最も高く約 49.8%

●人口の推移



楢川地区

地区別構想の骨子

3 地区の課題とまちづくりの目標

地区の強み

- 重伝建の指定を受けた宿場町、漆工町の街並みをはじめとした歴史・景観資源
- 住民の自治意識の高さと様々な自治活動
- 周囲に広がる豊かな森林や奈良井川の清流などの自然資源

地区の弱み

- 急速な人口減少と高齢化の進展
- 古民家等の空き家化の進展
- 医療機能を始め生活に必要な施設の不足
- 鉄道の運行本数の少なさと駅舎の老朽化・バリアフリー未対応
- 国道 19 号に依存し、孤立化の危険性の高い道路ネットワーク
- 集落内に分布する土砂災害のハザードエリア

「強み」を生かす

「弱み」を克服する

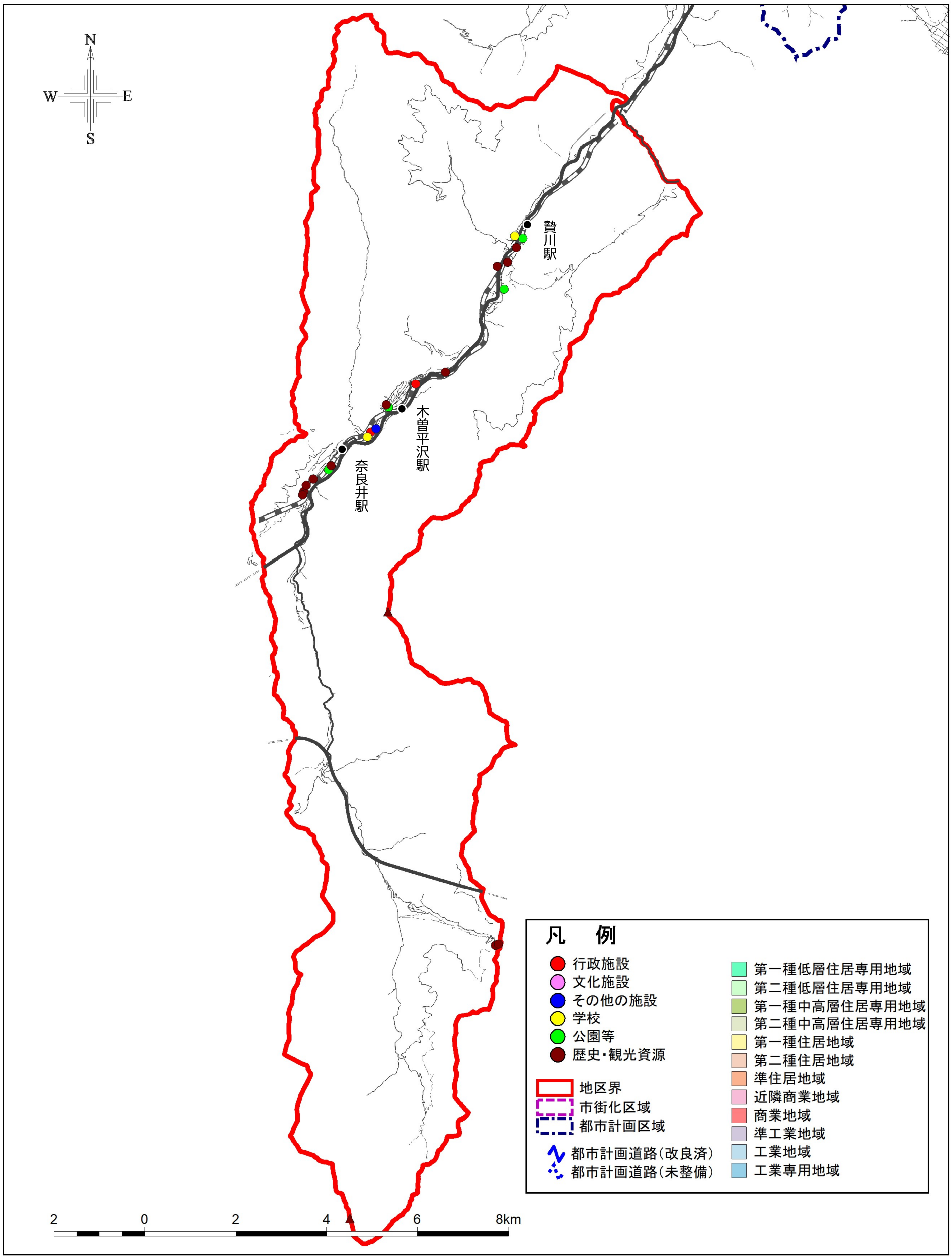
地区の課題

- 地場産業や歴史的街並みの後継者確保が必要
- 観光客等の来訪者を増やし、関係人口・交流人口の増加を図ることが必要
- 土砂災害によって地域が分断され孤立しない備えが必要

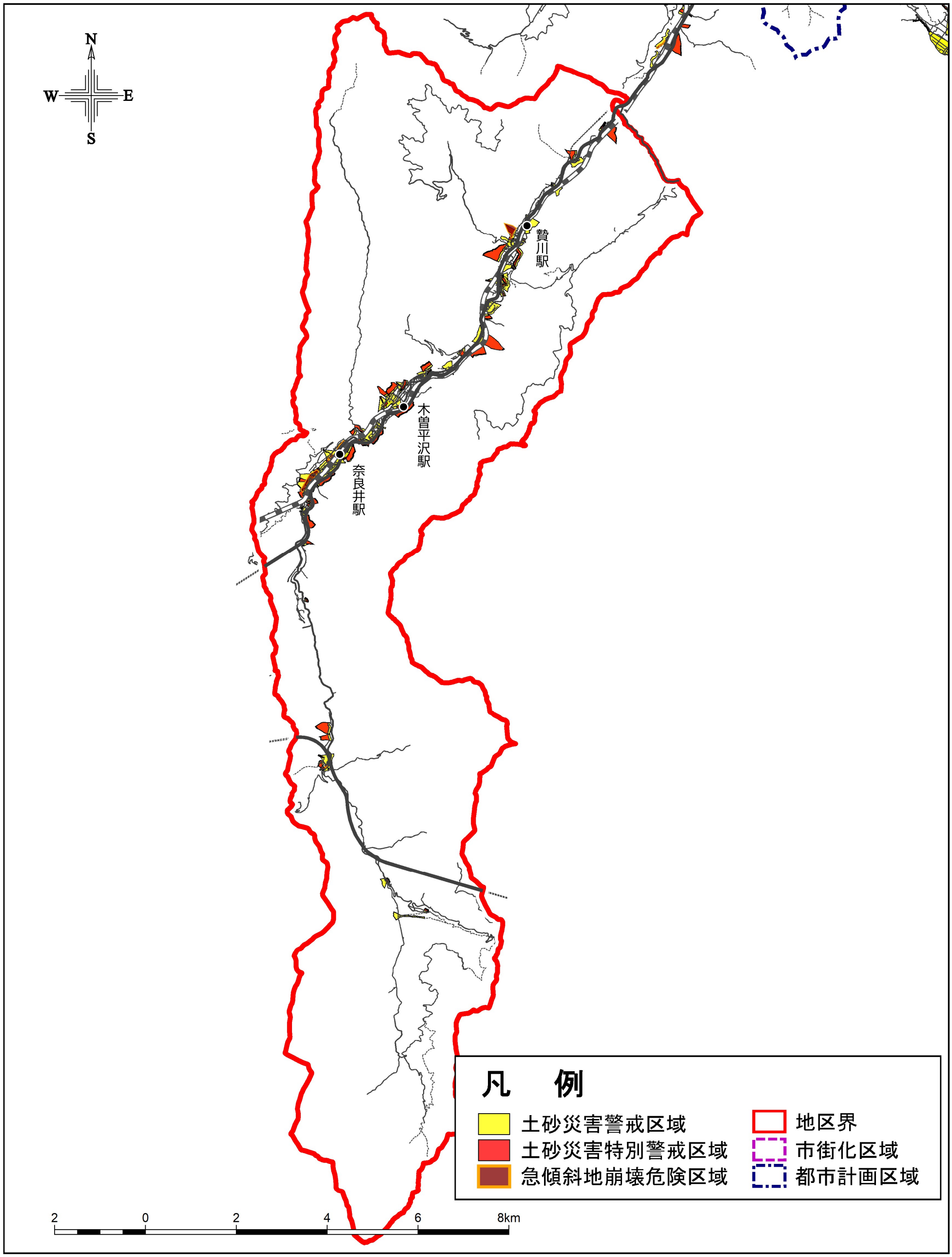
まちづくりの目標

- 歴史を有する街並みや伝統ある産業を保全・継承するまちづくりを進める
- 貴重な歴史や伝統を生かして全国、海外ともつながるまちづくりを進める
- 災害時でも孤立化しない周辺地域と連携可能なまちづくりを進める

●地区の主な施設・資源の分布



●地区の災害ハザード


N
W
E
S
贄川駅
木曽平沢駅
奈良井駅
凡　例
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域
急傾斜地崩壊危険区域
地区界
市街化区域
都市計画区域
2
0
2
4
6
8km